

愛顔 かがやけ 池島魂



～「今日も楽しかった。明日も楽しみ。」と思える学校を目指して～

発行：令和8年6月12日（金）NO7 文責：校長 津田 幸一

学校HP URL <https://www.nagasaki-city.ed.jp/ikeshima-h/>

ハンカチ理論

「ハンカチ理論」をご存じでしょうか。

ハンカチの中央を指でつまんで持ち上げると、ハンカチ全体が引き上がっていく様子から名づけられた理論です。

この理論は、組織や個人の成長を促進するための有効な考え方です。

今回は、この「ハンカチ理論」を紹介します。

端的に言うと、「中心となる部分を重点的に強化することで、全体を効率的に引き上げることができるということ」です。

個人レベルでは、その子の得意なことに注目しようということです。教師が子供のプラス面に注目して接することで、その子は苦手なことも次第に克服していくでしょう。

また、学級レベルでは、好ましい行動に注目することで、よいと価値づけられた行動を真似る者が増えることから、叱らずとも学級集団力は伸びていくだろうということです。真似た子も褒められることになり好循環が生まれることでしょう。

「叱るより褒めよ」という言葉もありますが、人を育てるといふことの王道のような気がします。

子育てにおけるハンカチ理論

子育てをハンカチに例えると、子供が中心部分にあたります。子供の得意なことや好きなことに焦点を当て、伸ばしていくことで、以下のような効果が期待できます。

★自信の向上

子供が得意なことや好きなことを伸ばすことで、自信がつき、積極的に行動するようになります。

★新しいことに挑戦する意欲

自信がつくことで、子供は新しいことに挑戦する意欲が高まります。

★困難を乗り越える力

得意なことや好きなことを通して、困難を乗り越える力を身につけることができます。

ご家庭でのお声掛けの参考にしてください。

お母さんの夢

S. (小学1年)

ぼくは、お母さんに「小さいころなになりたかった？」とききました。

すると、お母さんは「いろいろなものになりたかったのよ。おつかいでクリーニングやさんに行くとクリーニングやさんになりたいと思っだし、遠足ですてきなバスガイドさんを見れば、バスガイドさんになりたくなっだし、かそくでレストランに行けばウェイトレスになりたいと思っだよ。」と言いました。

だから、ぼくは、「そうしたら、お母さんのゆめはかなわなかったんだね。」と言うと、

お母さんは、「ううん、ぜんぶかなったよ。」と言いました。

だから、ぼくは、「どうして？」とききました。

すると、お母さんは、「だってお父さんのYシャツにアイロンをあてているときはクリーニングやさんだし、Sくんにおべんきょうをおしえているときは学校の先生になっているし、お父さんの車にのれば、お母さんは、バスガイドよ。」
「そして、みんなにしょくじをだすときは、ウェイトレスさんになった気分よ。」と言いました。

大人っていいなあ。

朝日作文コンクール入選作

児童作文『お母さんの夢』のよさ
～プラス思考～

子供の質問に誠実に答えているお母さん。お母さんは、幼いころの「夢・憧れ」を具体的に語っています。だからこそ、Sくんの心は作文の題材とするほどに引きつけられているのです。

前半、Sくんは、お母さんの話を聞き、いちどは「母の夢はかなわなかった」と判断しています。

この作文は後半がすごいのです。お母さんは、Sくんの意見を全否定します。「**わたしの夢はすべてかなった!**」と。

プラス思考。事象はその捉え方次第でどのようにも価値が変わってくるのです。お母さんのウィットに富んだ明るい回答を聞いて、Sくんも「いいなあ」という前向きな気持ちになります。

この発言は珠玉です。